

洗足学園音楽大学

グリーン・タイ ウインド・アンサンブル

2017年度演奏会

Senzoku Gakuen College of Music Green-Tie Wind Ensemble

伊藤 康英・企画運営責任者



ティモシー・レイニッシュ
Timothy Reynish



藤岡 幸夫
Sachio Fujioka



ダグラス・ボストック
Douglas Bostock

2017年6月22日(木) 18:30 開演 [18:00 開場]

指揮 ティモシー・レイニッシュ (元・王立ノーザン音楽大学教授)
藤岡 幸夫 (関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者)

Programme

パーシー・オルドリッジ・グレインジャー／民主主義行進の歌
Percy Aldridge Grainger (1882-1961) / Marching Song of Democracy (1916)

グスタフ・ホルスト (伊藤 康英 校訂版)／吹奏楽のための第1組曲
Gustav Holst (1874-1934) (edited by Ito, Yasuhide) /
First Suite for Military Band E-flat major (1909)

ヨハン・セバスティアン・バッハ＝伊藤 康英／シャコンヌ (全曲版新編曲・初演)
Johann Sebastian Bach (1685-1750) (arr. by Ito, Yasuhide) /
Chaconne, from 'Partita No.2' for solo violin in D minor BWV1004 (new arrangement, premiere)

ケネス・ヘスケス／ダンスシリーズ
Kenneth Hesketh (1968-) / Danceries Set 1 (1999)

ルイス・セラノ・アラロン／ドゥエンデ (日本初演)
Luis Serrano Alarcón (1972-) /
Duende, Four preludes for Symphonic Wind Ensemble (2010, Japan premiere)

アダム・ゴープ／イディッシュ・ダンス
Adam Gorb (1958-) / Yiddish Dance (1998)

2017年12月12日(火) 18:30 開演 [18:00 開場]

古典名曲を名匠ボストック氏と Vol.8
Douglas Bostock Presents Masterworks for Winds vol.8

指揮 ダグラス・ボストック (客員教授)

Anglo-French Gala

イギリスとフランスとの長い戦争の歴史を振り返りながら、今、考える平和。

Programme

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン (伊藤 康英 編曲)／
交響曲「ウェリントンの勝利またはヴィットリアの戦い」作品91 (新編曲・初演)
Ludwig van Beethoven (1770-1827) (arr. by Ito Yasuhide) /
Wellingtons Sieg oder Die Schlacht bei Vittoria, Op. 91 (new arrangement, premiere)

レイフ・ヴォーン・ウィリアムズ／イギリス民謡組曲
Ralph Vaughan Williams (1872-1858) / English Folksong Suite (1923)

フロラン・シュミット／ディオニソスの祭
Florent Schmitt (1870-1958) / Dionysiaques op.62 (1913/14)

ダリウス・ミョー／フランス組曲
Darius Milhaud (1892-1974) / Suite Française (1945)

伊藤 康英／グリーンズリーヴスの主題による幻想曲 (世界初演)
Ito Yasuhide (1960-) / Fantasia on Greensleeves (2017, world premiere)

E.グレッグソン／王たちは出陣する
Edward Gregson (1945-) / The Kings go forth (1998)

会場

洗足学園 前田ホール

JR南武線「武蔵溝ノ口」駅
東急田園都市線・大井町線「溝の口」駅 南口下車徒歩8分

入場料

¥1,000 (各公演・全席自由)

※写真・ビデオ等の撮影および録音は固くお断りいたします。
※駐車場はございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。
※公演内容は変更になる場合がございます。



【主催】洗足学園音楽大学・大学院 【後援】「音楽のまち・かわさき」推進協議会

ひと、音楽、未来、世界をつなぐ。洗足学園音楽大学は、音楽の学びと実践を通じて、豊かな社会づくりに貢献します。



洗足学園音楽大学

所在地 …… 〒213-8580 神奈川県川崎市高津区久本2-3-1
お問合せ …… 044-856-2713 (平日10:00~17:00)
Eメール …… ensou@senzoku.ac.jp

学校情報 …… www.senzoku.ac.jp
演奏会情報 …… www.senzoku-concert.jp
アクセス [senzokugakuen](#) 検索

YouTube facebook
オンラインでも演奏会をご覧いただけます。





伊藤 康英 作曲家・本学教授・GWE運営責任者

見よ!このプログラムを。演奏曲を見るだけでも身震いするほどだ。
それに、見よ!この指揮者陣を。2017年度に、これほどの巨匠にして
吹奏楽のエキスパートを招聘できるとは。

洗足学園音楽大学には4つの吹奏楽団がある。その中でこの「グリーン・
タイ ウインド・アンサンブル」は、作曲家である私がプロデュースしており、
良質でアカデミックなレパートリーを中心に据え、学生たちに「楽曲分析」の力を養わせつつ
演奏に臨む。

さて、2017年度は「イギリス」が中心となる。ティモシー・レイニッシュ氏の名前を知らない人も
多からう。しかし、世界の吹奏楽の舞台から眺めると、その名を、名声を、知らぬ者はいない。吹奏
楽に関して恐ろしいほど博識であり、また、「Royal Northern College(王立ノーザン音楽大学)」
を見事なバンドに育てたことでも知られる。(そのCDは、Chandosレーベルから多数リリース
されている)。前回、1995年の来日での驚嘆すべき名演は、いまだに私の耳に残っている。

さて、6月のコンサートの曲目は、イギリス、ドイツ、スペインそしてユダヤと欧州を取り囲む。

藤岡幸夫氏とグリーン・タイとの共演は3年目。今回も音楽への情熱に満ちた指揮が楽しみだ。
そして、藤岡氏のイギリスでの師匠がレイニッシュ氏。藤岡さんのご尽力で今回の招聘が可能と
なった。感謝の念にたえない。

12月は、ボストック氏とのコラボレーションの8回目。今回は、イギリスとフランス。海峡を
挟んだ隣どし隣の両国は、古くから戦争が絶えなかった。(今回のチラシの青と赤は、イギリスの
国旗の色のようにも、フランスのトリコロールのようにもある)。

今年も目が離せないグリーン・タイ、どうぞお楽しみに。



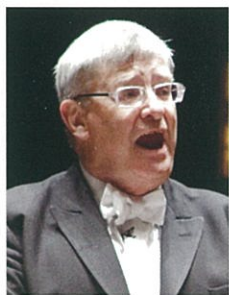
洗足学園音楽大学グリーン・タイ ウインド・アンサンブル

学園の色の一つ「緑」を冠した吹奏楽団。2009年、伊藤康英(本学教授)と共に始動。2010年、
台湾演奏旅行(新竹教育大学)、2013年シンガポール演奏旅行(有志メンバー/ウェスト・
ウィンズ)、2015年韓国演奏旅行(有志メンバー/漢陽大学)、2016年沼津公演(静岡県)、
2017年、WMC国際指揮コンクール予選マスタークラスのモデルバンド。藤岡幸夫氏がナビ
ゲーションを務めるBSジャパン「エンター・ザ・ミュージック」に2度出演。その他、福島県の
伊達市歌レコーディングなど、活発な活動を行う。日本のみならずアジア各地にもファンを持つ
吹奏楽団。指導陣には、斯界で知られる近藤久敦(本学講師)、仲田守(本学講師)を配し、
アカデミック・コーディネータとして福田昌範(本学講師)を擁する。

GWE最新情報やメッセージ、
SNSで続々発信中!



洗足の吹奏楽 ▶▶▶



指揮 ティモシー・レイニッシュ Timothy Reynish

ケンブリッジ大学卒業後、サドラーズ・ウェルズ・オペラ
管、バーミンガム市交響楽団などで首席ホルン奏者を
務める。指揮をジョージ・ハースト、チャールズ・グロー
ヴス、エイドリアン・ポルト、ディーン・ディクソン、
そしてシエナのキリアーノ音楽院にてフランコ・フェラー
に学んだ。ニューヨークのミトロプーロス国際指揮者
コンクールの優勝者として、英国の主要なオーケストラ
を指揮。1975年、王立ノーザン音楽大学の大学院指揮

科の助手として招かれ、その2年後に管打楽器科の主任に任命された。同大ではオペラ
の指揮も手がけ、「フィガロの結婚」「魔笛」「ラ・ボエーム」「期待」やブリテンの数々の
オペラを指揮した。王立ノーザン音楽大学管弦楽団とは、ペーター・ヴェン、ブラームス、
ドヴォルジャーク、チャイコフスキー、ブルックナー、マーラーらの交響曲、リヒャルト・
シュトラウスの交響詩、ストラヴィンスキーの「火の鳥」「ペトルーシカ」「春の祭典」、

ヴェルディの「レクイエム」、ティベットのオラトリオ「我らの時代の子」などを指揮した。

レイニッシュは、世界屈指のウインド・バンドおよびウインド・アンサンブルの指揮者
として知られている。王立ノーザン音楽大学では、ウインド・オーケストラとウインド・
アンサンブルを世界最高の水準に引き上げ、また著名な作曲家たちに100曲以上の
委嘱新作を作曲してもらい、音楽祭にも定期的に出演した。これまでアジアを始め、
カナダ、南米、ヨーロッパ、米国でクリニックや講演、客演指揮およびコンクールの
審査を行っており、Maecenas Music出版のエディターも務める。国際色に富んだ
レパートリーを収録した商業レコーディングは17枚におよび、最新盤は米国の沿岸警
備隊バンドとの録音である。2015年はシドニー音楽院でウインド・オーケストラの客
演指揮者を7週間務めたほか、リスボン音楽院、香港およびドイツで演奏会を行なった。
昨シーズンは、ロンドンの王立音楽大学とトリニティー・ラバン大学、イサカ・カレッジ、
シンガポールおよび米国などで演奏会を行なった。

公式ウェブサイト <http://www.timreynish.com>



指揮 藤岡 幸夫 Sachio Fujioka

慶応義塾大学、英国王立ノーザン音楽大学指揮科卒業。
「サー・チャールズ・グローヴス記念奨学賞」を特例で受賞。
1993年BBCフィルの定期演奏会が「タイムズ」紙などで
高く評価されると、1994年にロンドン夏の風物詩「プロ
ムス」にBBCフィルを指揮してデビュー。大成功を収め、
以後ロイヤル・フィル、ロイヤル・リヴァプール・フィル等
多くの海外オーケストラに客演。2006年スペイン国立
オヴィエド歌劇場ブリテン「ねじの回転」でスペインに
オペラ・デビュー。その年の同劇場新演出作品のベスト・パフォーマンス・オブ・ザ・イヤー
に輝き、2009年にR.シュトラウス「ナクソス島のアリアドネ」で再び大成功を収めた。

その年の同劇場新演出作品のベスト・パフォーマンス・オブ・ザ・イヤー
に輝き、2009年にR.シュトラウス「ナクソス島のアリアドネ」で再び大成功を収めた。

最近では2016年3月にブリュッセルでオーギュスタン・デュメイ氏、ヴァレリー・アフ
ナシエ氏と共演。

マンチェスター室内管弦楽団首席指揮者、日本フィル指揮者を経て、現在関西フィ
ル首席指揮者。毎年40公演以上を指揮し2016年で17年目のシーズンを迎えた関西
フィルとの一体感溢れる演奏は、常に聴衆を魅了し高い評価を得ている。

テレビ、ラジオへの出演も多く、2014年10月にスタートし、好評のうちに放送
2年目を迎えたBSジャパン「エンター・ザ・ミュージック」(毎週月曜23:00~)の立ち上げ
に参画し、指揮・司会として関西フィルと共に出演中。

2002年渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。

公式ファンサイト <http://www.fujioka-sachio.com/>



指揮 ダグラス・ボストック Douglas Bostock

ダグラス・ボストックは、現在スイスのアルゴヴィア・
フィルハーモニック首席指揮者として、また1992年より
チェコ・チェンバー・フィルの首席客演指揮者として、
ヨーロッパ、アメリカ、日本で幅広く活躍。2000年から
10年間にわたって世界的に高い評価を受ける東京佼成
ウインドオーケストラの常任指揮者、その後首席客演
指揮者も務め、2010年のヨーロッパ・ツアーも大成功
に導いた。オペラの分野でも活動の幅を広げ、スイスの

ハルウィル・オペラ音楽祭の音楽監督も務めている。その他これまでカールスバッド響
音楽監督及び常任指揮者、ミュンヘン響首席客演指揮者、コンスタンツ南西ドイツ・
フィル音楽監督を歴任。

幅広いレパートリーの中でもイギリス、チェコの音楽の解釈は特別な評価を受けており、

ウィーン古典派様式の新鋭かつ歴史的なアプローチは批評家、オーケストラ、聴衆にも
賞賛されている。また現代音楽の熱心な擁護者でもあり、たびたび作曲家とのコラボ
レーションや初演にも取り組んでいる。

これまでBBC響、ロンドン・フィル、ロイヤル・フィル、ロイヤル・スコティッシュ管、
ブラハ響、チェコ放送響、シュトゥットガルト室内管、北ドイツ・フィルなど欧米各国、
日本でも新日本フィル、京都市響、名古屋フィル、アンサンブル金沢等のオーケストラ
と活発に指揮活動を展開。

レコーディングも数多く、中でもニールセン、シューマンの一連の交響曲集は国際的に
高い評価を得ている。また現在進行中のプロジェクト「ブリテン・シンフォニック・
コレクション」は、世界中の評論家、音楽ファンの注目を集めている。

東京藝術大学音楽学部招聘教授を歴任。本学客員教授。

公式ウェブサイト <http://www.douglasbostock.net>



洗足学園音楽大学

所在地

〒213-8580 神奈川県川崎市高津区久本2-3-1

お問合せ

044-856-2713 (平日10:00~17:00)

Eメール

ensou@senzoku.ac.jp